

「次期改定計画に盛り込む（反映すべき）事項」に係る意見一覧

項目	意見内容
当事者目線の障がい者支援	<p>障がい者支援について、参考資料①を見させていただきました。入口と出口で考えると、まず入口の方については、障がいのある小学生たちが通う放課後デイサービスのあり方が問われています。例えば、放課後デイサービスでは、障がいのある子どもたちが日常なかなか経験できないことができたり、地域の人との関係を作ることが求められていますが、それがなかなかできていない放課後デイサービスが多く、そういったことが障がい児にとって大きな問題だと思うのですが、そのことがこの要素の中には書かれていません。</p> <p>そして、出口の方については、障がい高齢者の問題があります。先ほども地域生活移行の話がありましたが、障がい者の入所施設では20年、30年ずっとそこに入所している方々が非常に多いです。40代ぐらいから介護保険の情報を得たり、地域生活移行のチャンスが与えられていると良いのですが、それが得にくい状況の中で、やはり施設入所期間が30年、40年になってしまう方も多いのが現状です。こうしたことも計画の中で触れておかないと、課題は改善できないのではないかと気になります。</p>
重層的支援体制整備事業	<p>先ほどの重層的支援体制整備事業について、相談支援、参加支援、地域づくりの3つを一体的に実施することが必須ということがハードルが高いかなと思っています。特に参加支援や地域づくりについては、令和2年度評価を見る限りは、もちろん地域（まち）づくりとありますが、いわゆるまちづくり系の人たちとの越境したコラボレーションがもう少しないと、なかなか現在の福祉の人たちだけの体制のままでの地域（まち）づくりは難しいと思うところがあります。したがって、地域づくりとの協働、まちづくりの人たちや組織との協働という視点をぜひ次期計画に入れた方が良いのではないかと思います。</p> <p>重層的支援体制整備事業について、地域包括支援センターや基幹型相談センター等だけに予算がつけられるだけでは、今でも個別支援でいっぱいいっぱいの職員たちが、また予算をつけられてもできないということになり、非常に残念な状況になることが目に見えているように思います。</p>
ひきこもり支援	<p>ひきこもり支援についても、相談センターだけに予算をつけても、難しいと思っています。問題は、不登校からの引き続きでひきこもり状態の方が非常に多いということで、人間関係が構築できない、社会経験が不足している、学習だけでなく就労スキルがない等、様々な問題が大きくなっている方々が多いわけです。これを相談センターのみで対応することは難しく、もっと関係機関が動かなくてはいけないわけですが、そのチャンスが全く見出せない状態のものをつくっても、やはりお金の無駄になると考えています。</p>

<p>ケアラー支援</p>	<p>資料でも少し触れられていました、ケアラーについて、18歳未満のいわゆるヤングケアラーの問題は、今後、ひとり親家庭の増加が予想される中で、深刻化していくのではないかと考えています。</p> <p>海老名市も今年度になって、ようやくヤングケアラーへの取組みということで、啓発活動として講演会を1回やりました。これから民生委員、学校等に実態調査を行います。少しずつ動き始めてはいますけれども、この問題については、やはり早期発見、そして支援につなげること、また、子どもたち自身が、自分がそういう状態にあるということを認識していないということもありますので、動画等による普及啓発や関係者のネットワークづくり、さらには、こういった子どもたちや家庭を支える人材の育成等が今後必要だと思いますので、ぜひこの点は考慮していただけたらと思います。</p> <p>ヤングケアラーについては、それぞれの家庭の問題として家庭で解決すべきものだとこれまで捉えられてきて、なかなか福祉的な課題として顕在化しなかったことだと思います。したがって、まずは、県民にそういった実態があるということを知っていただくことや、それから関係者が発見をできるように、教育関係あるいは保育関係など幅広いところで普及啓発をすることが必要だと思います。</p> <p>それと、令和2年度はコロナにどう対応すべきか本当に分からない状態で、ほとんど研修は中止するといった対応だったかと思いますが、令和3年度には様々な方法が試行錯誤されて、このZOOMであるとか、YouTubeでの視聴というようなことはより一般化されたと思います。その良さを取り込みながら、子育て支援においても、例えばテレビを見るような感じで直接話し掛けてもらいながら一緒に手遊びをするといった取組みも、本当に孤立している親子にとっては非常に役立つものがあつたと思いますので、資料にもある「コロナ禍における事業実施例」というところで幅広く捉えていただけたらなと思います。</p> <p>ひとり親とかヤングケアラーの話題も県社会福祉協議会の中で聞こえ始めています。それに関して早期発見というキーワードが出てきましたけれども、先ほど申し上げた福祉サービスの持続的な提供という点では、計画上どういう表現で、またどういう事業となるのか分かりませんが、実際に困っている人にどう情報を届けるのかという観点で議論を深められたら、実効性が伴うのではないかと印象を持っています。</p>
<p>8050 問題</p>	<p>資料にある8050問題では50の方たちにいかに社会や地域に参加してもらおう仕組みを作るかということが重要で、現在のその仕組みづくりは必ずしも十分ではないと思われましたので、次期計画にはそれを盛り込む必要があるのではないかと思います。</p>

<p>生活困窮対策</p>	<p>藤沢市には4つの大学があり、これまで住民の学生たちがボランティアですとか、地域の会議体や活動を一緒になって動いていたわけですが、コロナにより止まってしまいました。</p> <p>私たち自立相談員は、社会福祉協議会として特例貸付を窓口で受ける際に相談員として貸付担当の横に立つわけですが、相談のスキルを上げて出すカードがないので、なかなか難しいところがあります。特に、親御さんがコロナで打撃を受けて学費を出せないであるとか、学生本人がアルバイトをして成り立たせていたものが、アルバイトができなくて学業が継続できない等、そういった学生が貸付の相談に来ます。精神的に病んで学校に行けない方もいますし、また、オンラインで授業を受けるといってもそこにもお金がかかります。</p> <p>これからの未来を背負う若者たちのこうした現状にしっかりスポットを当てて、県がしっかり支援していくとの思いが見える、希望を見出せる計画となるよう、文言を記載していただきたいと思います。</p>
<p>コロナ禍を踏まえた今後の地域福祉のあり方</p>	<p>対面がお互い難しい訪問や対面のイベントは、ZOOMにより多くは対応できると思います。手話のイベントが実施できなかったとの報告を読み、コメントも文字で送れる ZOOM は対面と変わりなく手話を学んだりできるのではないのでしょうか。または、YouTube で配信することで、視聴側が自分の都合に合わせた時間で学ぶことができるので、有効活用して手話をより広められたらと思いました。今までイベントへの参加希望があっても、その場に行けずに諦めていた人々が、ネット配信で参加することができ、認知度があがると思います。</p> <p>最近では主婦の引きこもりもあるとテレビで知りました。コロナで外出の機会を減らすと、外で出会う知り合いも減り、大切な友人が引きこもってしまっても気づけないと感じました。支援の場があることを、家にいても知ることができると思いしました。生協のチラシ、子供の学校のお手紙など、出掛けなくても目に入る知らせ方があると、助けられる人も増えると感じます。</p> <p>この2年の私の経験の中では、こんな時だからこそその個人や地域のストレングス（強み、できること）を利用した、工夫した活動が数多くありました。そういったものに全く視点が置かれていないことが残念でなりません。このように記載されてしまうと、皆が落ち込んでいく感じがするので、やはりもっと機運を高めていこうという計画にしていかれる方が良いと強く思います。</p> <p>コロナ禍において、福祉サービスをどうやって持続的に提供していくかという話題は、施設等の方とやりとりをしていると、雑談も含めて聞かれているところではあります。振り返ると、コロナによりイベントを中止するといった時期もありましたが、各委員がおっしゃるとおりオンライン化であるとか、他のやり方もある、と理解しているところではあります。</p>

ひとづくり	<p>支援をする側とされる側が固定的ではない、ボーダーレスな関係づくりという観点からひとづくりを考えていくこともこれからは欠かせないと思われまますので、そういった視点も盛り込むことができたらいいかと思います。</p> <p>「担い手の育成」は、県内、全国の自治体が直面している課題です。本市においても、コロナ禍や地域住民が抱える複合化・複雑化する課題への対応等、担い手の負担が増えていること、また、様々な活動を持続可能にしていくためには、担い手の高齢化が進む中、新たな担い手の育成は急務であり、市と県との役割も踏まえてどのような取組を進めていくのか、有識者である委員の皆様で議論いただける場面があればと思います。既に県計画の大柱「ひとづくり」中柱「地域福祉の担い手の育成」に位置づいていますので新たな事項ではありませんが、この課題は、コロナ禍の中で改めて浮き彫りになったように思います。</p>
住まい・見守り	<p>住まいの提供という面で、例えば高齢の方が賃貸住宅に入居されるといったハードの施策的には充実してきたと思うのですが、お住まいになってからの見守り等の部分で、福祉の視点から何かフォローアップと申しますか、全体的に対応できるかが気になっています。</p> <p>今までの貸主側が入居を拒むといった姿勢は徐々に解消と言いますか、御理解いただけるようになってきました。しかしながら、高齢者お一人でお住まいになる方をどうやって見守り、安否確認するかという部分は大きな課題となっていますので、そこに対しては地域の方から何か後押しできないか御検討いただければと思います。</p>